

高品質米の 安定生産を目指して

上川の米づくり
46号
令和4年3月

- ◆ 令和3年産 水稻の作柄と品質
- ◆ 令和4年の米づくりに向けて
 - 胴割粒発生防止対策
 - ノビエの防除対策
- ◆ 北海道における高密度播種短期育苗の適用性と早生品種「えみまる」の導入効果
- ◆ 箱施用剤を使って『吟風、彗星、そらゆき』のいもち病防除を省力化！！
- ◆ 地区別・品位別入庫実績
- ◆ 上川地区酒米生産協議会 活動報告
- ◆ 上川水稻直播ネットワーク 情報交換会
- ◆ 上川地区米麦改良協会 活動報告



数多くの北海道を代表する品種が生まれた上川。
そんな「米どころ上川」の13JAが結集し、その実力をもつ
と多くの消費者に知ってもらうための統一ブランド

「上川生まれ 上川育ち」

「日本一の米どころ北海道」における NO.1産地を目指して。

上川農業改良普及センター・道総研上川農業試験場
上川地区米麦改良協会・ホクレン

令和3年産 水稻の作柄と品質

令和3年の作柄は全道各地で「良」以上を確保し、3年連続の豊作年となりました(上川: 596kg/10a, 作況指数 108, 図1)。

しかし、品質面では胴割粒の発生等により、1等米比率で87%とやや低下しました。食味については良好な結果となり、低タンパク米(白米のタンパク質含有率6.8%以下)の出荷率は、過去4年間で最も高くなりました(図2)。

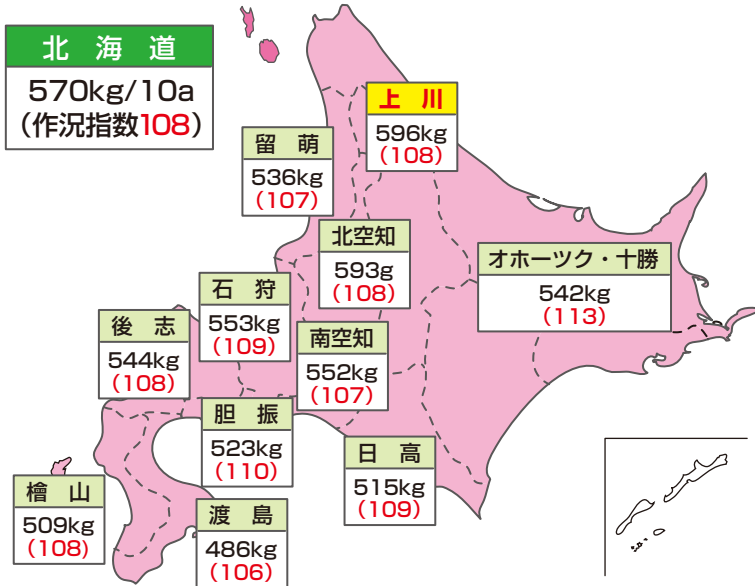


図1 地帯別10a当たり収量 ※ふるい目幅1.9mm使用時 (R3年10月25日公表、北海道農政事務所)

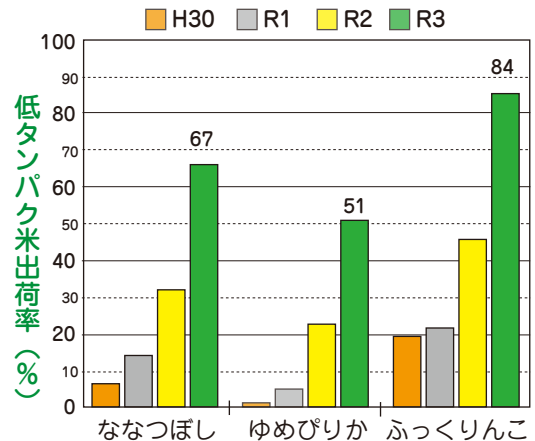


図2 品種別の低タンパク米出荷率 (ホクレン、R3年12月6日現在) ※ゆめぴりかは第1区分S ふっくりんこは基準品

令和3年の作況、猛暑以外は良好に経過

- 6月以降の高温・多照傾向により、初期莖数を十分に確保することができました(図3)。
- その結果、穂数は平年対比で3%多くなり、一穂籾数はほぼ平年並に確保され、稔実歩合も平年に比べやや高かったため、㎡当稔実籾数は5%程度多いなど、マイナス要素が見られず、収量構成要素を確保できた年となりました(図4)。
- 出穂始からの記録的な猛暑 ➡ 胴割粒の多発を招きました。特に、暑さが厳しかった上川中央部では多発傾向でした。

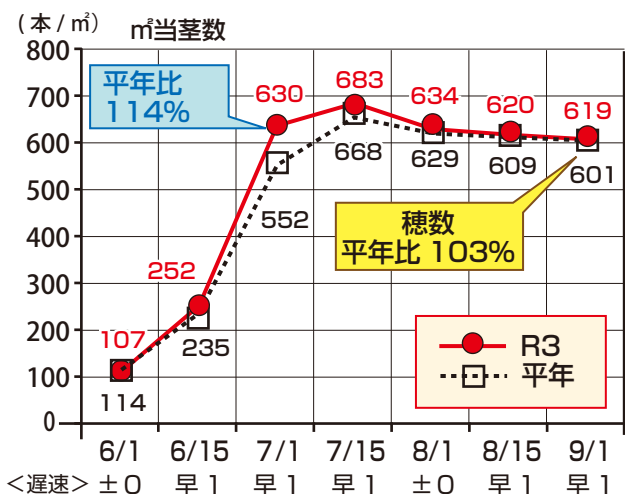


図3 全道の莖数・穂数の推移 (R3農政部農作物生育状況調査より)

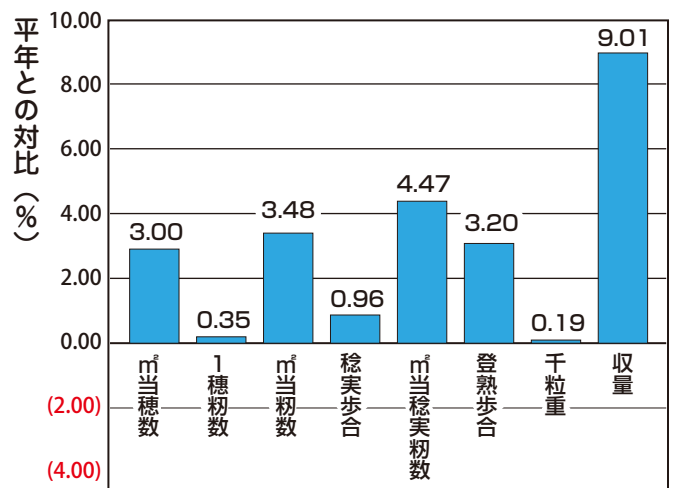


図4 収量決定要素・決定要素の平年対比 (R3農政部農作物生育状況調査より)

令和4年の米づくりに向けて

～令和3年の反省に基づく技術対策～

1

胴割粒発生防止対策1：穂揃い性の向上

- ① 穂揃いの良い稲は、均一に登熟するため、刈り取り時の玄米水分が均一になります。
- ② 穂揃いの悪い稲は、出穂の早い穂と遅い穂が混在するため、玄米に「水分のバラツキ」が生じます。水分のバラツキが大きいと、立毛乾燥中あるいは機械乾燥時に水分ムラになることから、胴割粒発生の原因となります。
- ③ このため、胴割粒発生防止には穂揃いの良い（初期生育の良い）稲作りが重要な対策となります。

具体的対策

- 健苗育成（育苗時の高温に留意する）
- 適期移植（移植は5月末までに終える）
- 栽植密度の確保
（成苗ポット：22～25株/m²、株間12～13cm以下）
中苗マット：25株/m²以上、80株/坪以上）
- 適正植付深（深さ1.5～2.0cm）
- 側条施肥割合の再検討
- 移植後の水管理（水深3～5cm浅水管理）

2

胴割粒発生防止対策2：登熟期の高温対策

出穂後20日以内で、日中の気温が29℃以上、夜間も23℃以上になる日が5日以上続くと予測される場合は、夜間にかんがい水の掛け流しを行い、地温や稲体周辺の気温を下げる対策を講じ、高温による胴割粒発生防止を図ります。

（図5,6）

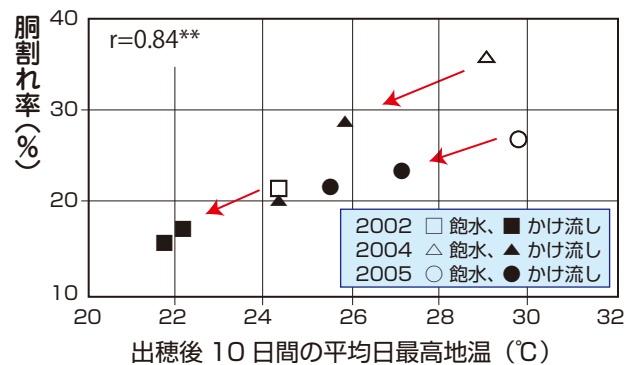


図5 出穂後10日間のほ場内地温と胴割率の関係
（2002～2005年、東北農研センター、「あきたこまち」）

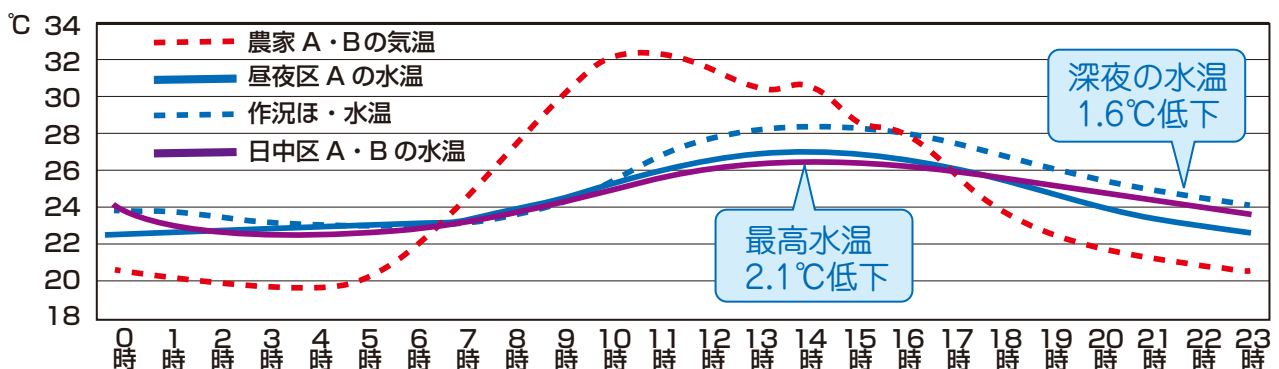


図6 用水掛け流し20日間における水温抑制効果
（R3年、網走農業改良普及センター美幌支所調べ）

3

胴割粒発生防止対策3：登熟期の土壌水分確保

- ① 落水時期が早く、土壌表面が乾燥し過ぎることで亀裂が入り、根が切れて水稻の吸水力が低下します。このことが登熟不良や粒重低下などを招き、胴割粒発生のリスクに繋がります。
- ② 収穫 10 日前頃までは、土壌表面に 1 cm 以上の亀裂を入れないような水管理を行う必要があります（写真 1、2）。
- ③ 登熟期後半の適正な土壌水分は、土壌表面に小さな亀裂ができ、足を踏み入れた際、わずかに足跡が付く程度（pF2.3 以下）が目安となります。



写真1 大きくひび割れたほ場
(令和3年8月下旬撮影)



写真2 タップリと入水されたほ場
(令和3年8月中旬撮影)

4

胴割粒発生防止対策4：適期収穫の実施

- ① 成熟期の目安は、出穂後に日平均積算気温が 950℃に達した日です（北海道の水稻うるち中生品種の場合）。
- ② 令和3年は地域によって収穫がやや遅れた地域が見られました（図7）。
玄米判定時に胴割粒の発生状況（可能であれば軽度・重度なども）を確認し、発生が認められる場合は整粒 70%での早刈りも有効です（JA と要相談）。
- ③ 収穫時期に降雨が予想される場合は、降雨前の収穫を推進します（図8）。

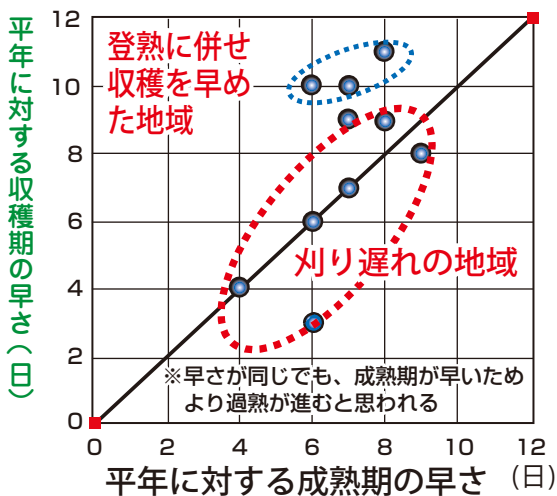


図7 成熟期と収穫期の年平均比較（振興局別）
(R3年農政部農作物生育状況調査より)

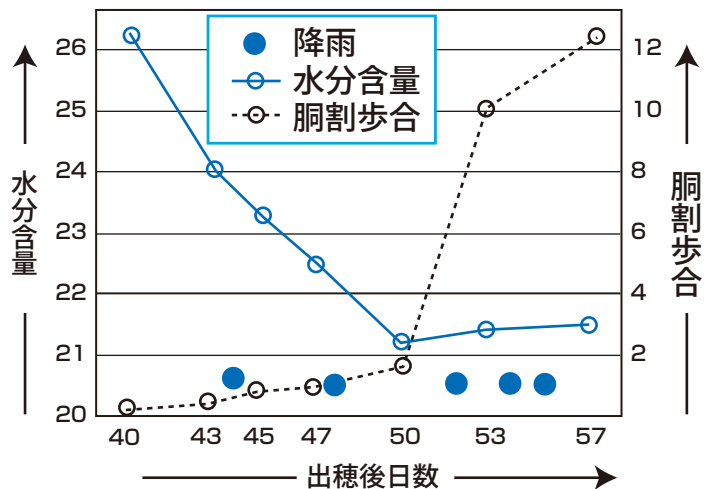


図8 出穂後日数と胴割粒発生の関係
※出穂後 50 日を超えると急激に胴割粒が増加する。
登熟が進みすぎると、米粒品質は急激に低下する
(北海道農業入門【稲作編】より)

5

胴割粒発生防止対策5：慎重な乾燥調製の実施

- ① 乾燥機による乾燥は通常乾減率 0.8% /h 程度が目安ですが、胴割粒の発生が懸念される場合は、乾減率 0.5 ~ 0.6% /h 程度に低下させます (図9)。
- ② 穀温はできるだけ低くすることが望ましいですが、温度設定は 40℃以下になるように設定します。
- ③ 乾燥機張り込み後は、こまめに温度設定や粉水分を確認し、過乾燥にならないように注意します。
- ④ 二段乾燥による乾燥も、急激な乾燥を防ぐ意味で胴割粒低減に有効です。

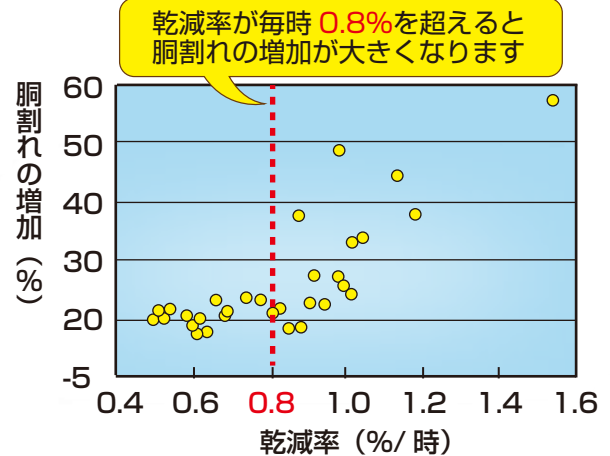


図9 乾減率と胴割れ増加の関係 (新潟農試)

ノビエの防除対策

ノビエ防除対策

令和3年は後発生のノビエが問題になる場面が多かった (写真3)。
 ~その原因と防除対策について~

ノビエ多発の原因

- ① 5月3~4半旬が高温で経過、農試水田センサーもこの頃、高い値を示しています (図10, 赤丸部分)。
- ② このため、ノビエの出芽が早まり、除草剤を処理する頃には処理時葉齢の晩限を越えていた可能性があります。
- ③ 処理後は好天が続き、水温が比較的高い状態で経過し、完全枯殺に至らず回復再生も早かったものと考えられます (図10)。
- ④ 7月中旬からの猛暑を受け、水分確保のため水田に水が張られている状態となりました。この頃の水温も高い状態が続きました (図10)。
- ⑤ このため、ノビエの発生好適環境が持続し、除草剤の残効が切れた後、地中深くから成長してきた個体が多かったと考えられます。



写真3 ノビエの多発状況 (上川管内, R3年9月1日撮影)

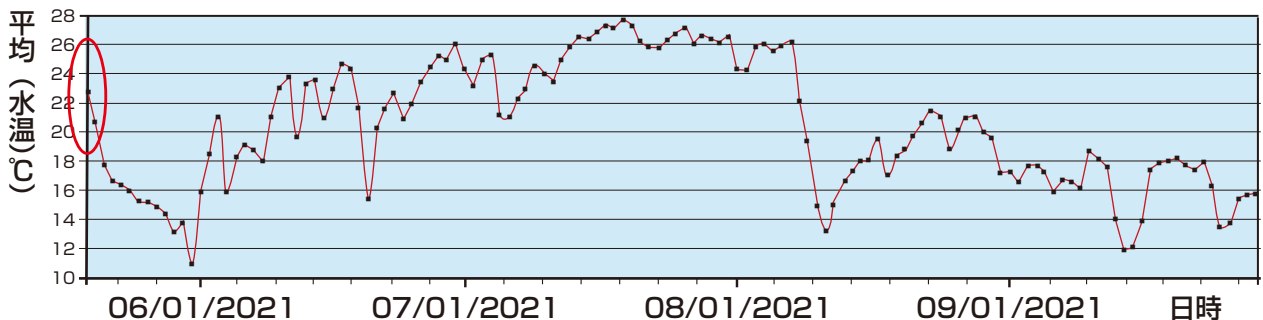


図10 令和3年上川農試「優良品種決定調査ほ」における日平均水温 (水田センサー)

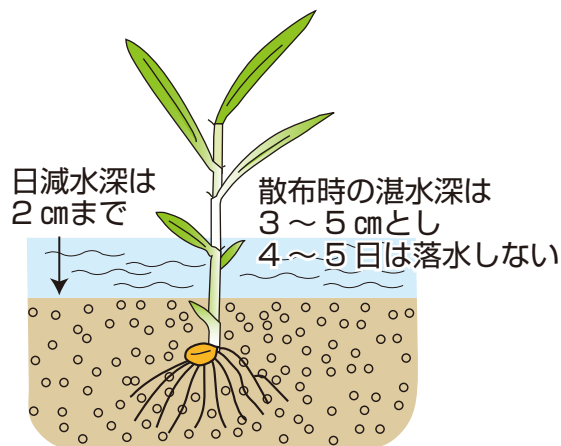
令和3年の多発ほ場

➡ 令和4年は、ノビエ多発を前提とした管理を！

➡ まずは、高葉齢のノビエにも効果がある剤を選択します
次に、以下のような基本技術の励行を心がけます！！

水管理のポイント

- ① 処理前に漏水箇所等の点検・補修を念入りに行い、散布後の水田水を流出させないようにします。
- ② 散布時は完全に止水、散布後7日間程度は田面を露出させないよう湛水を保ち、入水する場合は処理層を破壊しないよう静かに行います。
- ③ フロアブル剤、ジャンボ剤等は水深5～6 cm とし、拡散を阻害する藻類・表層剥離が少ないことを確認します。



▲ 除草剤の散布条件

使用時期のポイント

- ① 除草剤の使用方法で示す葉齢の違い(図 11)

➡ 水稻の葉齢は『平均葉齢』
ノビエの葉齢は『最高葉齢』
(初生葉を1葉と数えるので稲より1葉多い)

- ② 散布適期を少しでも過ぎると効果は大きく低下

➡ 早め早めの使用が望ましい。

- ③ 代かきから移植までの日数
→ 5日以内として設定されています。

➡ 日数が伸びる際は、特にノビエの葉齢に注意し散布時期を早める等の対策が必要です。

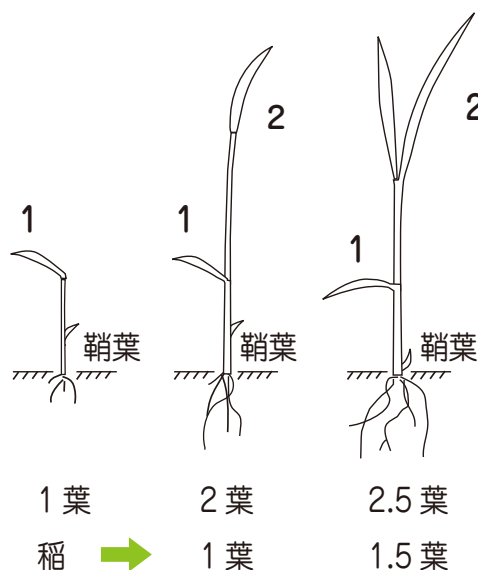


図 11 ノビエと稲、葉齢の数え方

『北海道における 高密度播種短期育苗の適用性と早生品種「えみまる」の導入効果』

高密度播種短期育苗（以下、高密短）とは？

種籾を乾籾播種量で 250～300g/箱（催芽籾で 500～600cc/箱）と厚播し、育苗日数を 15～20 日程度と短期化して移植を行う育苗管理法です。

近年、水稻の省力栽培技術として「高密短」の確立が求められています。

しかし、「ななつぼし」などの中生品種では、生育遅延による品質の安定性にリスクがあるため、早生品種「えみまる」の活用が期待されています。

そこで道総研では、北海道における高密短の最適な栽培管理法や、品種ごとの導入可能地帯を明らかにする研究が行われ、この度、研究成果として発表されました。



高密短の苗
乾籾 250g
育苗日数 :18 日
移植時葉数 :2.0 葉



中苗(慣行)の苗
乾籾 100g
育苗日数 :30 日
移植時葉数 :3.0 葉

研究成果1

- ・ 10a 当り使用箱数は、乾籾播種量 250g/箱で約 15 箱、300g/箱で約 11 箱となり、中苗対比で 5 割以上削減されました。
- ・ かきとり本数を 3.5～5.5 本で移植するためには、横送回数 26～30 回、縦かきとり量 6～10mm の範囲でかきとり設定を変更できる高密度播種仕様の移植機が必要となります（データ略）。

研究成果2

- ・ 密短苗の苗質は稚苗に近く、収量および品質は慣行中苗に対しほぼ同等でした（表 1）。
 - ・ ただし出穂期が慣行中苗対比で約 5 日遅延し、アミロース含有率は出穂期が遅いほど増加する傾向が認められました。
 - ・ 密短苗「えみまる」の出穂期は同「ななつぼし」より約 5 日早く、中苗「ななつぼし」と同等であり、「えみまる」の導入により生育遅延によるリスクは解消されました。
- 一方で、密短苗「えみまる」の幼形期茎数および収量は「ななつぼし」より劣る傾向がみられました。

表 1. 密短苗とその他苗種の比較

品種	試験場	苗種	N	移植時	移植時	移植時	移植時	出穂期 (7/1=1日)	成熟期 (9/1=1日)	幼形期 茎数 (本/㎡)	穂数 (本/㎡)	総籾数 (千粒/㎡)	精玄米 収量 (kg/10a)	アミロース 含有率 (%)	タンパク 含有率 (%)
				草丈 (cm)	葉齢 (枚)	乾物重 (g/100本)	N含有率 (%)								
えみ まる	上川 農試	密短苗	8	11.4	1.9	1.0	3.2	25	12	514	657	35.8	661	18.9	6.5
		稚苗	5	14.5	2.1	1.3	3.4	24	10	455	672	35.9	690	18.3	6.4
		慣行中苗	8	16.5	3.2	2.3	3.9	20	6	447	698	35.4	656	18.2	6.9
	中央 農試	密短苗	8	10.4	1.9	1.1	3.3	30	17	348	573	29.0	540	18.2	8.5
		稚苗	8	12.1	2.1	1.4	3.3	28	15	320	582	27.2	510	18.2	8.5
		慣行中苗	8	12.6	2.9	2.2	3.9	25	13	228	557	28.0	520	18.0	8.5
ななつ ぼし	上川 農試	密短苗	8	10.9	1.9	1.0	3.3	30	21	584	634	36.8	701	20.5	6.1
		慣行中苗	8	15.7	3.1	1.3	3.2	25	12	630	672	37.8	678	20.1	6.2
	中央 農試	密短苗	8	9.3	1.9	1.0	3.2	35	20	457	570	31.7	577	19.9	7.7
		慣行中苗	8	12.1	3.0	2.1	3.9	31	15	371	531	32.3	579	19.6	8.0

- ・密短苗の葉齢は播種量の増加に伴い減少し、育苗日数の延長により苗の徒長や窒素含有率の低下が生じました（表2）。
- ・「えみまる」は「ななつぼし」より草丈が伸びやすく、草丈の確保が容易である一方、徒長リスクが高いと判断されました。本田試験では苗の葉齢減少に伴う出穂期遅延、苗の徒長に伴う初期生育不良が生じました（データ略）。

表2. 播種量および育苗温度が密短苗の苗形質におよぼす影響

品種	乾 粉 播種量 (g/箱)	簡易有効積算温度														
		160-180℃					180-200℃					200-220℃				
		N	草丈 (cm)	葉齢 (枚)	窒素含有率 (%)	地上部乾物重 (g/100本)	N	草丈 (cm)	葉齢 (枚)	窒素含有率 (%)	地上部乾物重 (g/100本)	N	草丈 (cm)	葉齢 (枚)	窒素含有率 (%)	地上部乾物重 (g/100本)
えみ まる	200	3	10.6	1.9	3.7	1.13	2	12.0	2.0	3.8	1.15	2	13.5	2.0	3.3	1.30
	250	4	10.1	1.9	3.5	1.10	2	12.1	1.9	3.7	1.11	2	12.2	2.0	3.2	1.19
	300	3	10.2	1.9	3.5	1.05	2	11.9	1.9	3.5	1.09	2	12.5	1.9	3.0	1.13
ななつ ぼし	200	3	9.5	1.9	3.4	1.11	2	10.9	1.8	3.4	0.93	2	12.1	2.0	2.8	1.16
	250	4	9.4	1.9	3.4	1.07	2	11.2	1.8	3.2	0.97	2	11.5	1.9	2.9	1.07
	300	3	10.0	1.9	3.5	1.03	2	10.8	1.8	3.0	0.91	2	12.0	1.9	2.8	1.09

・表3のように、機械移植に適した草丈 10～12cm から適正育苗管理法（簡易有効積算温度 180～200℃及び、窒素追肥量 1g/N 箱）が明らかになっています。

そして、これに伴う葉齢、地上部乾物重、窒素含有率の目標値も設定されました。

良好な活着と初期生育の確保を目指すため、この表の備考欄を作業ポイントにし、目標値に向かってきめ細かな育苗管理をお願いします！

表3. 高密短における育苗管理目標

項目	目標値	備考
苗形質	草丈 10～12 (cm)	・密短苗は草丈の過不足による
	葉齢 1.8 枚以上	本田初期生育不良が生じやすい。
	地上部乾物重 (g/100本)	・育苗期間は適切な温度・灌水管理に努める。
	窒素含有率	・適期播種及び適期移植を実施する
		・乾粉播種量増加により葉齢が低下し、本田生育遅延リスクが高まる。
播種・育苗管理	乾粉播種量 (催芽粉 500～600mL)	・高密度播種対応の播種機、移植機を使用。
	簡易有効積算温度 180～200℃	・地域の気象特性や品種特性を加味し、生育遅延リスクに応じた播種量を選択する。
	育苗日数 20 日前後 (目安)	・ハウス無加温平置き出芽による。
	窒素追肥 1g N/箱	・育苗日数の延長は徒長苗を助長する。
苗箱覆土		・1.0～1.5 葉期に実施。
灌水管理		・培土カット量を標準より約 3mm 増加させる。
		・出芽直後に適宜土落としを実施する。
		・1.5 葉期以降は毎朝十分な灌水を実施する。

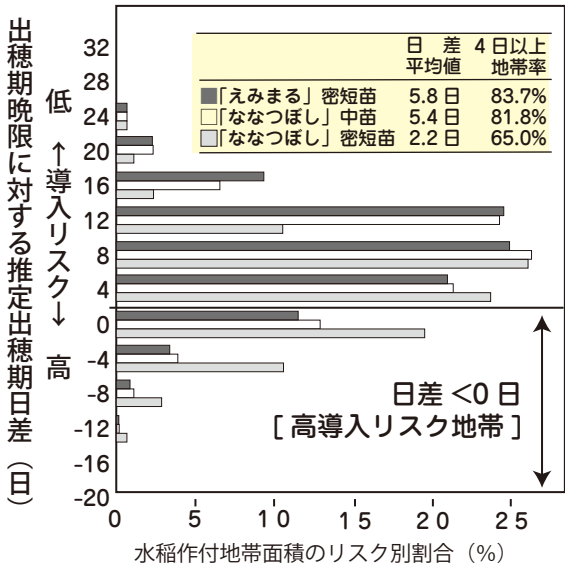


図1 高密短「えみまる」「ななつぼし」の導入リスク比較

注) 出穂期晩限に対する推定出穂期日差が0日より大きい場合、出穂期晩限より前に出穂期となるため、導入リスクが低い。

推定出穂期はメッシュ農業気象データの30年平均値を用い発育モデルから算出した(移植日5/25。モデルの出穂期推定誤差3.0日を推定出穂期に加算)。対象メッシュは国土数値情報の土地利用3次メッシュ(H26年版)のうち、2017年作物統計で水稲のデータを公表する106市町村より7935メッシュを抽出した。

研究成果3

高密短の導入可能地帯は、密短苗「えみまる」が同「ななつぼし」より10%以上広く、中苗「ななつぼし」と同等でした(図1)。

高密短の導入リスク低減には「えみまる」の使用が有効となります。

研究成果4～省力効果大～

現地における導入事例では、苗箱数の減少に伴い、播種、箱並べ、積込の時間が約6割、移植作業時間が約2割削減され、投下労働時間は約6.6人時/ha削減されました。

また、苗箱数減少にともない資材量も減少し、物財費は9,904円/10a削減されました(データ略)。

箱施用剤を使って『吟風、彗星、そらゆき』のいもち病防除を省力化！！

研究成果名：穂いもち圃場抵抗性に応じたいもち病に対する育苗箱施用剤の活用法

研究成果の要約

現在主に使用されている育苗箱施用剤はいずれも、葉いもちに対する効果は高いのですが、穂いもちに対する効果は低いです。

しかし、穂いもち圃場抵抗性が「そらゆき」以上の品種では、近隣に発生圃場があり感染リスクが高い条件でも、育苗箱施用剤のみで穂いもちが被害許容水準以下に抑えられ、本田のいもち病防除は不要となることがわかりました。

酒米や業務用米の圃場で、いもち病の本田防除が省略できる！減農薬栽培が可能に！

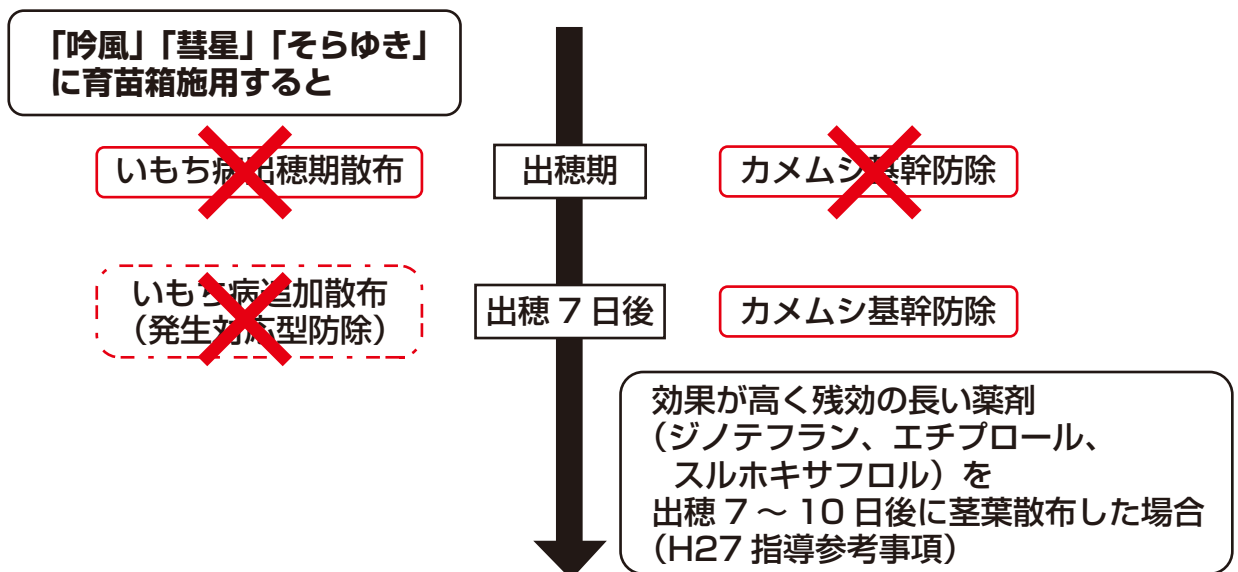
穂いもち圃場抵抗性	品 種	育苗箱施用なし ¹⁾			育苗箱施用あり		
		葉いもち		穂いもち	葉いもち		穂いもち
		茎葉散布	出穂期散布	追加散布 ²⁾	茎葉散布	出穂期散布	追加散布
強	きたくりん	不要			育苗箱施用剤不要		
やや強	吟風・彗星	△ ³⁾	要	不要	不要		
	そらゆき						
中以下	はくちょうもち	△	要	△	不要	要	△
	きらら397など						
	ゆめぴりかなど ななつぼしなど						

1) H26 指導参考事項 2) 葉いもちの発生が多く、出穂が長引く場合に行う散布
3) △：発生対応型防除を適用する（H16 普及推進事項）

※使用されるいもち病育苗箱施用剤の銘柄等については、
最寄りの農業改良普及センターにお問い合わせ下さい。

さらに、過去の研究成果の活用で、本田防除はカメムシ防除の1回のみ！！

- ① 下図のとおり、いもち病とカメムシ防除は、出穂期の同時防除が基幹、さらにカメムシに対しては1週間後の防除も基幹とされてきました。
- ② 平成27年の成績で、残効の長いジノテフラン、エチプロール、スルホキサフロルを出穂7～10日後に散布することで、出穂期のカメムシ剤散布を不要にできることが示されています。
- ③ 本成績で「吟風」「彗星」「そらゆき」に育苗箱施用剤を用いた場合は、本田でのいもち病防除は不要ということが示せたため、出穂期の防除を完全に省略し、出穂7日後のカメムシ基幹防除のみに行うことができるようになりました。



出穂期のいもち病・カメムシ防除を完全に省略できる！！

地区別・品位別入庫実績 (2022年1月12日現在)

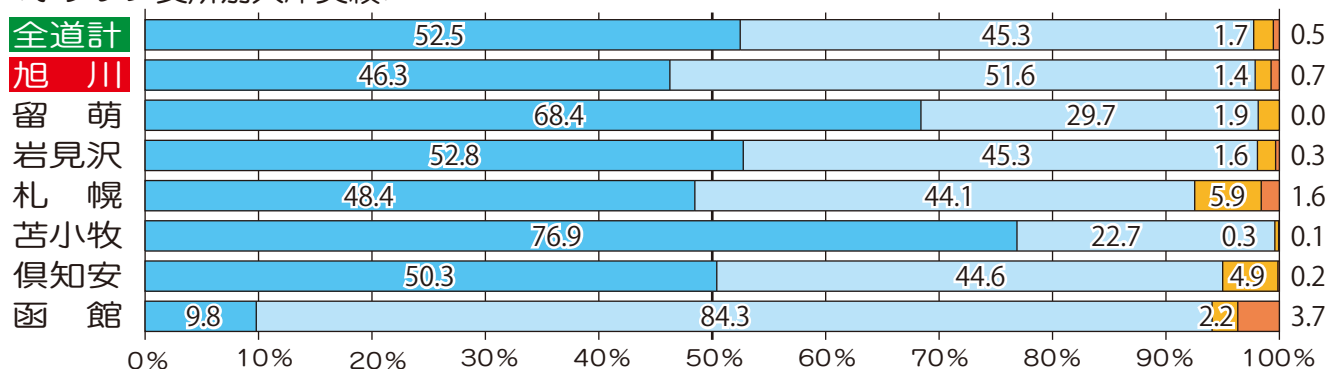
令和3年産「ゆめぴりか」の蛋白別品位については、全道平均での基準品率が、97%、上川管内が98%と、上川管内が令和元年産から3年連続で全道を上回る結果となりました。生産者の皆様をはじめ、関係機関各位にご尽力いただいたこと、感謝いたします。

また、残念ながら、令和3年産「ななつぼし」の蛋白別品位について、上川管内は全道平均の低蛋白率には及びませんでした。

北海道を代表する「ゆめぴりか」「ななつぼし」双方の低蛋白米安定生産こそが、米どころ上川管内産米のブランド力の維持・向上には不可欠ですので、引き続きご協力の程よろしくをお願いいたします。

「ゆめぴりか」全道地区別の基準品率 (令和3年産)

<ホクレン支所別入庫実績>

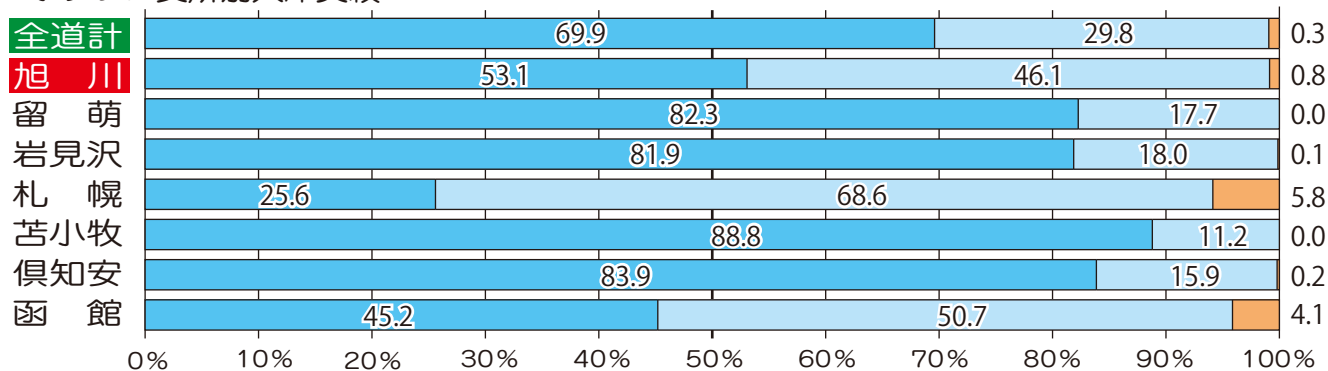


- 第1区分S
- 第1区分
- 第2区分
- 第3区分

区分	タンパク含有率
基準品 第1区分S	6.8%以下
第1区分	6.9～7.4%
第2区分	7.5～7.9%
第3区分	8.0%以上

「ななつぼし」全道地区別の品位別入庫率 (令和3年産)

<ホクレン支所別入庫実績>



- 低タンパク
- 一般
- 高タンパク

区分	タンパク含有率
低タンパク	6.8%以下
一般	6.9～7.9%以下
高タンパク	8.0%以上

臨時総会・第一回協議会を開催

令和3年8月、旭川市内のホテルで上川地区酒米協議会の臨時総会と第一回協議会を開催しました。

臨時総会では、令和2年11月に岐阜県の中津川市から東川町へ移転した三千櫻酒造株式会社の協議会加入が決議されました。

その後の第一回協議会では、酒造メーカーから令和元年産の品質評価や新型コロナウイルス発生に伴う販売の現況等を説明いただき、上川地区が一丸となって良質酒米の生産に取り組むとともに消費拡大を図っていくことの重要性が確認されました。



総会の様子



三千櫻酒造 山田社長

上川水稻直播ネットワーク

情報交換会

上川水稻直播ネットワークでは水稻栽培の省力化と産米の収量品質向上を目指し、稲作経営の確立に寄与することを目的に、水稻直播栽培に関する情報交換会を年2回開催しています。

今年度については、残念ながら夏期情報交換会、冬期情報交換会ともに新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止いたしました。

会員の皆様には参考資料と今年の実績データを送付させていただき、開催の代替えとさせていただきました。また、総会についても文書開催とさせていただきました。

会員の皆様にはご迷惑をおかけすることとなりましたことをお詫び申し上げます。

上川地区米麦改良協会 活動報告

上川管内産「ななつぼし」 のリレー出荷を実施 於：JA 上川ビル「みはら食堂」

JA上川ビルには、一年を通し多くの農業関係者の往来があり、入居している「みはら食堂」は関係者のみならず、一般のお客様も利用する食堂として営業しています。

上川管内産米のPRをするのに最適な飲食店なので、各農協単位で「ななつぼし」をリレー出荷し、米どころとしての認知を高める活動をしています。

また、キャンペーン企画として、抽選で上川地区金賞米「ゆめぴりか」のプレゼントを実施し、271通の応募がありました。

もち米においても「お赤飯の日」(11月22日)の前日に、お赤飯を提供し好評を博しました。

上川のおいしい水と空気で、今年もおいしい新米が育ちました！
みはら食堂では、上川管内の各農協で収穫された新米「ななつぼし」を半月ごとに順次、リレー形式で入れ替わり提供します。
上川産のおいしいお米を存分に、ご賞味ください！

JAひがしかわ・JA道北なよろ・JA上川中央・JAふらの・JA当麻・JA東神楽
JA北びびき・JAたいせつ・JA東旭川・JAびつぷ町・JAびえい・JAあさひかわ・JA北はるか

JA上川地区女性協議会の
とっておきレシピが
メニューに登場！
上川産新米と道産野菜
をつかった
バイキング
880円

新米プレゼント企画
期間中お食事をされた方/
ゆめぴりかコンテスト2021金賞受賞
新米ゆめぴりか 5kg
抽選で10名様にプレゼント！
【応募期間】11/1～12/24まで
※詳しくは店内ポップもご覧ください

旭川市宮下通4丁目JA上川ビル1F
☎0166-26-5520 駐車場完備(1時間無料)
営業 / 11:30～14:00(LO13:45) 土日祝定休

共催 / 上川生産農業協同組合連合会・北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会

令和3年産米「上川地区統一商品」販売開始!

上川管内十三JA ゆめぴりか

上川地区「ゆめぴりか」
コンテスト2021にて
金賞産地が決まりました。
選り抜かれた「ゆめぴりか」
ならではの甘みや香り、艶やかな
令和3年産米をお楽しみください!



販売・取扱店

※営業時間等 詳しくは各店にお問い合わせください

松本米穀店	旭川市7条通18丁目右10号	☎0166-31-7266
一村米穀店	旭川市神楽5条3丁目2-9	☎0166-61-2673
雨尾米穀店	旭川市1条通9丁目左7号	☎0166-23-5690
武田米穀店	旭川市春光台2条3丁目7-3	☎0166-51-1745

上川地区「ゆめぴりか」生産販売連絡協議会 上川地区米麦改良協会

「ゆめぴりか」コンテスト 金賞受賞米を 上川地区統一商品として販売

令和3年度上川地区ゆめぴりかコンテストで金賞を受賞したゆめぴりかを上川地区統一商品として市内米穀店で販売しました。

米どころ上川のなかで更に選り抜かれた「ゆめぴりか」の甘みや香りを味わっていただく取扱い店や商品紹介について、フリーペーパー「ライナー」に掲載し、旭川市や近隣町村の消費者へ紹介しました。